

第3期科学技術基本計画(平成18年3月28日閣議決定)

第3章 科学技術システム改革

2. 科学の発展と絶えざるイノベーションの創出

(2) 大学の競争力の強化

「我が国の大学において、研究活動に関する各種評価指標により、世界トップクラスとして位置づけられる研究拠点、例えば、分野別の論文被引用数20位以内の拠点が、結果として30拠点程度形成されることを目指す」

経済成長戦略大綱(平成18年6月26日経済財政諮問会議)

第1. 国際競争力の強化

1. 我が国の国際競争力の強化

(1) 科学技によるイノベーションを生み出す仕組みの強化

「世界トップレベルの研究拠点を整備(中略)を行う。」

第5. 生産性向上型の5つの制度インフラ

1. ヒト:「人財立国」の実現

(3) 人材の国際競争力の強化

①世界的な教育研究拠点の飛躍的な拡大

「5年で世界トップレベルの研究拠点を整備する(2010年:30拠点程度)」

経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006(平成18年7月7日閣議決定)

第2章 成長力・競争力を強化する取組

1. 経済成長戦略大綱の推進による成長力の強化

(5) 生産性向上型の5つの制度インフラ

①ヒト:「人財立国」の実現(世界的「ブレイン・サイクル」の取り込み)

・2010年までに世界トップレベルの研究拠点を整備する(30 拠点程度)とともに、大学院教育の抜本的強化を図る。

関連する主な閣議決定等（続き）

平成19年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針（平成18年6月14日総合科学技術会議）

1. 基本的考え方

総合科学技術会議では、イノベーションの源としての基礎研究の強化から、イノベーションを結実させる政策の強化で体系的に俯瞰した「イノベーション創出総合戦略」を取りまとめた。・・・（中略）・・・この戦略を具体化していくことが、平成19年度の最重要課題であり、総合科学技術会議は関係府省の取組を主導するとともにフォローアップを行う。

イノベーション創出総合戦略（平成18年6月14日総合科学技術会議）

1. イノベーションの源の潤沢化

○ 世界トップレベルの研究拠点の構築

大学におけるシステム改革を進め、分野の特性を配慮し大学の自主的な取組を促しつつ、以下のようなイメージの下、革新的な拠点形成を図る。「21世紀COEプログラム」の後継施策等の関連施策の有効な組み合わせも含め実現。

- 研究分野について焦点を絞った拠点構想（分野の例：素粒子物理学、材料科学、免疫学、数学など）
- 例えば、教授10人、研究者50人程度以上の規模（常勤・専属、2割以上は外国人）
- 能力主義に基づく研究責任と報酬（業績評価反映の年俸制、競争的資金からの研究促進のための人件費の支給など）
- 大学の研究科・専攻、附置研究所、大学共同利用機関等従来の枠組みにとらわれない組織
- 民間からの寄付金を含む外部資金の積極的獲得
- 研究や教育の従事時間が十分確保される時間管理体制（エフォート管理）
- 英語での研究環境
- 出産・育児における勤務環境の改善などによる女性研究者が活躍しやすい研究環境
- 世界的な研究者の存在または魅力ある最先端研究チームと施設・設備の存在
- 例えば、10～15年間程度の取組期間（5年毎に評価、入れ替えの可能性を担保する仕組み）

研究開発独立行政法人等についても、大学に準じて検討するとともに、大学との融合を考える。